

# 第34回 近畿色彩教育研究会

## テーマ 「色が伝える」

### ごあいさつ

色は様々なことを私たちに伝えてくれます。四季折々の情感や作者の心情を伝える絵画、あらゆる内容を視覚情報で伝えるポスター、これらはすべて「色」が私たちに何らかのメッセージを伝えようとしているのではないのでしょうか。今回は「色が伝える」というテーマで色の役割やその効果について、皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。講演は、絵本作家としてご活躍の長谷川義史氏にお願いしております。ご自身の作品をもとに絵本と色の関係に触れながらお話をいただきます。3つの講座では、実践のアイデアが次々と湧いてくるような研究会をめざして、様々な分野でご活躍の方をお招きし実践に役立つ内容を準備しております。ともに学び、ともに深め合え、気軽にコミュニティーが形成できるのが本研究会の持ち味です。色を通して皆さんと造形教育のスキルと知識を高め合えることを楽しみにしております。ふるってご参加ください。

**日時** 平成30年8月6日(月) 10:00~16:30 7日(火) 10:00~16:30

**会場** エル・おおさか(大阪府立労働センター) 7階 708 大阪市中央区北浜東3番14号  
京阪・地下鉄谷町線「天満橋駅」(西へ300m)、京阪・地下鉄堺筋線「北浜駅」(東へ500m)  
地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」(東へ1200m)、JR東西線「大阪天満宮駅」(南へ850m)

**講演** 長谷川 義史氏 [絵本作家]

1961年、大阪生まれ。グラフィックデザイナー、イラストレーターを経て、2000年、『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』で絵本作家デビュー。2003年『おたまさんのおかいさん』(解放出版社)で講談社出版文化賞絵本賞、2008年『ぼくがラーメンたべてるとき』(教育画劇)で日本絵本賞、小学館児童出版文化賞を受賞。

**講座** 2日間の研究会を通して、実技を中心とした講座を3つ準備しております。

※両日 協賛各社による教材教具、書籍等の展示があります。

**参加費** 一般 4,500円・会員 3,500円(当日に会員申し込みができます。)

**懇親会** 4,000円(1日目研究会終了後) 楽しく交流しながら、より深く学び合おう!

**申し込み** 事務局へのFAX、e-mail、ホームページからのネット申し込みができます。

**ネット申し込みが便利!!** 下記ホームページからフォーム入力で申し込みができます。

<http://www.kinki-sikkyo.jp/>

ネットで懇親会を一括申込の場合500円割引しますので8,000円を振り込んでください(会員であれば7,000円。)**定員は先着60名**ですのでお早めをお願いします。

**申し込み開始、平成30年6月1日(金)** 申込み後、**平成30年7月23日(月)**までに下記口座に参加費、懇親会費をお振り込みください。受講票は**7月24日(火)**以降に送付させていただきます。あらかじめご了承ください。

**振り込み先** ゆうちょ銀行 近畿色彩教育研究会 店名 四一八(読みヨンイチハチ)

店番 418 預金種目 普通預金 口座番号 9774107 (一般銀行からも振り込めます。)

**お問い合わせ・ネット以外 FAXの申込み先**

事務局 堺市立浜寺中学校 伊藤慶孝 592-8342 大阪府堺市西区浜寺船尾町西5丁60

Tel 072-261-2205 Fax 072-261-1037 e-mail color@kinki-sikkyo.jp.org (事務局)

**主催** 日本色彩教育研究会

**後援予定** 大阪府教育委員会 / 大阪市教育委員会 / 堺市教育委員会 / 京都府教育委員会 / 京都市教育委員会 / 奈良県教育委員会 / 奈良市教育委員会 / 兵庫県教育委員会 / 神戸市教育委員会 / 滋賀県教育委員会

# 第33回近畿色彩教育研究会 報告

テーマ  
『色を動かす』

会場 エル・おおさか

日時 平成29年

8月8日(火)

9日(水)

人は生活の中で常に動くものを見えています。映像、ファッションなど、静止していると同じ色の組み合わせでも、動きの中では見え方が変わり無限に広がります。「色を動かす」ことにより、図工・美術における表現が広がり、さらに楽しく感じることができるのではないのでしょうか。第33回研究会は講演と3つの講座でアクティブに学び合えるよう工夫しました。



## 保山 耕一 氏

〔映像作家・フリーランステレビカメラマン〕

奈良を拠点にする保山氏。「奈良には365の季節がある」という言葉から講演がはじまり、見る人の心に命の鼓を打ちさせる映像作品を見せて頂きました。自然への畏敬や命の大切さが物語にある。その中でも特に、「暮木の三葉」の鼓が印象的でした。「何事もテクニックではない」「使う道具でもない」「ただただまっすぐに動けてきたその人に敬意を付いたもの、それが人の心を動かす、それしか伝わらない」と。カメラマン1年間に先輩方から叩き込まれた「基本」が今の自分を作っているというお話に心打たれ、夢の映像や言葉の響きから、保山さんの自然や風景、奈良への愛が伝わり、講演会終了後も会場の空気が心に広がる素晴らしい時間となりました。



## 梶岡 創 氏

〔滋賀県大津市立打出中学校 教諭・滋賀県中学校美術教育連盟 副委員長〕

「私の話は授業のスタート地点の本質的な点になります。今日の話は授業でいうところの、花ではなく葉っぱの部分の話です。」という言葉からはじまり、全学年から授業への流れや、制作時の材料選びなどの大事なことなど、半面は実践家や今後の美術教育の方向を踏まえながら、たくさんのお話を頂きました。また、持ち寄った自作での制作作品をグループで発表し合う時間も平行して行い、グループ内で題材の面白さや制作の工夫点を交差する時間もあり、学びと発見が広がる機会となりました。



## 杉山 優子 氏

〔造形作家・京都造形芸術大学通信教育学部 非常勤講師〕

大学で造形表現を指導されている造形作家杉山 優子氏にご指導いただきました。5つのグループに分かれ、グループごとの色のイメージで考えを交えていきます。日本古来の色彩観を「朝顔の黄」の赤黒白青に、黄を加えた5色を用い、各グループ450枚の半色の色紙をすべて並べるところから始めました。朝顔の葉を模し、赤や黄も使って、気が付けば3次元の新たな空間ができていました。色グループの色が背景になったり、実物の朝顔の色も知ったりと意外な結果が発表でき、驚きにもふれた機会となりました。



## 明星 守 氏

〔NPO 法人 ADEC (アデック) 色彩士検定委員長・神戸基礎デザイン研究所 代表〕

色彩学を専門とされている明星守氏より、子どもにもわかりやすい「色がなぜ混ざることができるか」から、「色の見え方や感じ方」を教えてくださいました。「光は白色(赤黄青緑紫)に分解されること」は朝顔の子フィルムを使い丁寧に説明いただきました。また「色を混ぜると白味が無くなっていくこと」を朝顔の色紙で体験しました。この機会に実

